



交通の便

JRの場合

「稲枝」駅よりタクシーで15分

お問い合わせ先 TEL 0749-22-1110 (近江タクシー)

マイカーの場合

〈ETC搭載車〉

◎名神「湖東三山スマートインター」より当山まで1分

〈一般車〉

京阪神方面からは名神「八日市インター」より当山まで12分

中京方面からは名神「彦根インター」より当山まで20分

湖東三山まん中のお寺

天台宗

金剛輪寺

近江西国第十五番札所・びわ湖百八霊場第六十三番
湖国十一面観音第十一番霊場・近江七福神霊場
神仏霊場滋賀三番・近江湖東二十七名刹第十番



年中行事

1月18日 初観音大般若会

一年の無事安泰を祈る法要。厄除けかぶら汁の接待あり

5月5日 仏生会花祭り

お釈迦様のお誕生日、甘茶の接待あり

5月1日～20日 金剛界八十一尊曼荼羅特別公開

8月9日 観音盆千日会・千躰地藏盆会

先祖や水子の供養をする法要。千日参りともいう
長生きそうめんの接待あり

毎月28日 不動明王護摩供

写経

金剛輪寺大伽藍再興祈願の写経をお願いしております。ご奉納のお写経は再興なった三重塔内に永遠に安置しております。本堂、庭園書院及び受付所に用紙等用意しております。ご協力いただければ幸いです。

●食堂華楽坊

・華楽坊 250名収容 ・別館道場 150名収容
名物精進弁当、大黒弁当、抹茶等5人以上〈予約制〉
華楽坊金剛輪寺境内 ☎(0749)37-3211

湖東三山まん中のお寺

天台宗 金剛輪寺

〒529-1202 滋賀県愛知郡愛荘町松尾寺873番地
TEL (0749) 37-3211/FAX (0749) 37-2644
URL <http://www.kongourinji.jp/>



石楠花：4月中旬より末まで
さつき花：新緑の頃5月より6月中旬



あじさい：6月末より8月上旬
睡蓮：6月より9月



金剛輪寺みどころ



紅葉：11月より12月 血染めのもみじ



雪：紅葉の散る頃より 12月～2月

金剛輪寺

略録起

松峰山金剛輪寺は聖武天皇の勅願寺として、行基菩薩が天平十三年(七四一)に開山された歴史のあるお寺です。本尊聖観世音菩薩は行基菩薩の御作といわれています。以来、天下泰平の祈禱寺として宋え、学問僧が多く集まり、嘉祥年間(八五〇)には延暦寺の慈覚大師が来山。密教修法と西方阿弥陀仏の信仰を初めてご教化になり、天台の大本寺となりました。寿永二年(一一八三)には源義経が義仲を討せんとして近江に来たり、当山に参籠十数日、武運必勝を祈願し、太刀を寄進しました。

寛元四年(一二四六)には、昭和五十三年秋、昭和の復元大修理を終えた三重塔が創建されました。歴史にのこる文永弘安の役には鎌倉の北条時宗が佐々木頼綱に命じて近江国中の祈禱寺社に元軍降伏の祈願を修せしました。当山長老寛賢は、衆僧をばげまし大祈禱を厳修しましたところ、元軍は大敗し、時宗は凱歌を挙げ、日本国中をはじめ安堵いたしました。近江守護役頼綱は弘安十一年(一一八八)、当山本堂大悲閣以下を再興して、観音さまの靈験に感謝しました。現在の本堂大悲閣がそれで、実に七百年をこえる歴史をもつ大堂で、鎌倉期和様建造物の代表的なものとして国宝に指定されています。昭和三十九年東京オリンピックには日本建造物の代表選手として、文部省が十分の一の模型を作成、東京国立博物館に展示され、世界の人々の注目を集めました。創建時、当山は東西南北四谷に分かれ、それぞれの坊舎が壘をならべ、その数は百余とされ盛なることでした。

現在でも参道沿いに坊跡をみる事ができます。数多くの仏さまが諸堂に安置されていますが、「建暦」「貞応」等鎌倉初期の銘を有するものも多く、十四軀が国の重要



文化財に指定されております。応仁の乱後は佐々木六角氏や京極氏が時々宿陣し、戦時には兵糧米、軍資金を強請される事度重なり、当山においても、弓矢を持ち、自衛しました。山中に城山という所があるのは、当山衆徒岩跡であります。天正元年(一五七三)、百濟寺が鯨江城を後援したことで、信長は同寺を焼き払いました。この時、金剛輪寺も同罪ということで火をはなれましたが、当山僧侶の機知により、本堂、三重塔、二天門等はその難を免れました。

徳川家光公が当山に諸謀役免除地三十石を寄進されたのが復興の基となり、井伊直孝侯、黒衣の宰相天海僧正の助力も大でありました。寛永九年(一六三二)正親町天皇の御孫、良弼親王が当山に静仙院を建立され、仏道を修業。明和の頃(一七六四)は明寿院他十二坊、末寺二ヶ寺有り、僧侶五十余人余が、仏法を学び農業を営んでいました。明治維新により、境内山林全て上地の悲運にあい、山内僧侶すべて退山帰俗、本坊明寿院一坊となりました。しかし、仏徳の尊厳変わることなく、全国十方、観音信者の御後援により、境内整備、諸堂の復興に努め明治、昭和の本堂大修理をはじめとし、江戸末期に荒廃した三重塔復元大修理も昭和五十三年に完工。湖東三山の雄として、古より今に国家安泰、万民豊樂を祈る道場となっており、参道には国宝本堂三重塔は緑樹繁る山腹に位置し、参道には千余のお地藏さまが嚴座され、春は山桜、つつじ、石楠花、夏は紫陽花が美しく、秋は紅葉が名園池水に映えて、詣でる人自ずから心の塵も払われ、現世安穩、未来の幸福が約束され、慈悲の光は全山に満ちみちております。お経に「観世音淨聖は衆生の苦惱死厄に於て能く其の人の依り処となること、念々疑いを生ずるな」と説かれています。私達は素直にこの文を信じ、苦しみや悩みがあるとき、ただひたすら観音さまに帰命すべきです。

「仏法の大海は信を以て入り智を以て渡る」と説かれています。御信心をお勧めします。

参拝者各位

合掌

金剛輪寺につたわる

七つのお話しの

ひとつを紹介します

豆の木太鼓

掃除をしていた一人の小僧が、とつぜん大きな声を立てました。

「みんな来るんじゃ、豆じゃ豆じゃ…」
庫裡の床下に、大粒のふつくらとした
そら豆が箱に入れて置いてあります。

「一升はある、うまそうじゃのオ」

集まった小僧たちはそら豆を前によだれを流さんばかりにして相談し合いました。そしてその結果、和尚さんの留守を幸いに食ってしまおうということになりました。秋が来て豆を時こうと思つた和尚さんは床下の箱を見ると一粒もありません。「正直に白状すればゆるしてやります」和尚さんの前でうなだれたままの小僧たちでしたが、最後には白状しました。「一粒の豆を食ってしまえば、一粒でおわる。だが、大地に蒔けば何十粒、何百粒にもふえる。そら豆にも命がある。お前たちはその命を取ってしまったのじゃ」

ゆるしてもらつたものの、このままでは和尚さんに申し訳がない。小僧たちは暗い床下に入り、一粒でも落ちていないかと探しました。

金剛輪寺

文化財

仏像

秘仏本尊聖観世音菩薩

天平期



奈良時代の高僧、行基菩薩が一刀三礼、拝みながら彫刀を進められると、やがて木肌から一筋の血が流れ落ちた。この時点で観音さまに魂が宿ったとして、菩薩は直ちにその彫刀を折り、粗彫りのまま本尊として安置されました。後の世に「生身(なまみ)の観音さま」と信心されております。

行基菩薩



銅 磬

鎌倉時代
重要文化財

十一面観世音立像

平安中期
重要文化財

大黒天半跏像

弘仁期
重要文化財

慈恵大師像二軀

鎌倉初期
重要文化財

四天王像四軀

鎌倉初期
重要文化財

毘沙門天立像

鎌倉初期
重要文化財

不動明王立像

鎌倉初期
重要文化財

阿弥陀如来坐像二軀

鎌倉初期
重要文化財

建造物

本堂大悲閣

弘安十一年(二二八八)
国宝

三重塔待龍塔

寛元四年(二四六)建立
重要文化財
昭和五十三年秋復元修理工事完工

二天門

室町時代
重要文化財

大行社本殿

室町時代
重要文化財

本坊明寿院

昭和五十三年秋再建

水雲閣

江戸時代末
茶室



「あつた、あつたぞッ」床下の隅の方に。たつた一粒ありました。小僧たちはその一粒に祈りを込めて畑に蒔きました。それからというもの、「一斗ほど穫れる大きな豆の木に育ちますよう…」観音さまに一心に祈願しました。やがて芽を出した豆が、日毎、夜毎に大きくなり、一抱えもある大木となり、一斗以上もの豆が穫れました。「お前たちが己を空しゅうして育てたのが観音さまのお心にも通じ、ご利益となって現れたのじゃ。これすなわち、仏の教えにいう自利他というものじゃ…」

この豆の木で太鼓の胴を作り後世に遺しました。これが金剛輪寺に伝わる豆の木の太鼓です。

「近江むかし話より」



※自利他…自ら仏道を成じてさとりを得ることに、他に仏法の利益を得させること。